



但馬水産技術センターだより



漁況情報（G2020号）

令和2年10月12日
兵庫県立農林水産技術総合センター
但馬水産技術センター 発行

1. ソデイカ（あかいか）の中短期予報をお知らせします。

これまでの調査結果をもとに、別紙のとおり「令和2年度日本海ソデイカ（あかいか）中短期漁況予報」を取りまとめましたので、ご活用ください。

【内容抜粋】

現況：10月上旬まで

- ・ 漁況指標値（香住支所の1日1隻あたり漁獲量）は、9月中旬までは操業がなく、9月下旬に48kg、10月上旬に84kgと低調である。
- ・ 漁獲物のサイズは、10月上旬時点で胴長50cm台が主体。

今後の漁況予報

- ・ 現況では但馬沿岸への漁況指標値は低調であり、過去の傾向から本格的な漁期に入る9月の水準が低調な場合は漁期後半も引きずることが多く、長期漁況予報の来遊指標値160kg前後（±80kg）に対して、80kg～160kgと低めで推移する可能性が高い。
- ・ 今後の漁獲サイズは、現在の漁獲主体が成長した胴長60cm台前半～70cm台前半のものが中心になると考えられる。
小型サイズもわずかにみられるが、現況では新たな加入群の兆候としては弱いと考えられる。

漁場環境の推移について

- ・ 山陰・若狭沖の冷水域の張り出しの規模は「やや小さい」、接岸状況は「やや離岸」で経過する見込みである。冷水域の中心部は概ね隠岐の北北東の北緯37°以北にあると推定される。
- ・ 好漁場の指標となる水深50m深の19℃等温線、水深100mの15℃等温線の南縁はどちらも北緯36°以北で概ね沖合に広く分布するため、イカの分布は沖合まで分散しやすいと考えられる。

詳細は、別紙の資料1をご覧ください。

また、当センターのホームページにも掲載予定です。

<http://www.hyogo-suigi.jp/tajima/index.htm>

お問い合わせ先：兵庫県但馬水産技術センター（担当：鈴木）

TEL：0796-36-0395 FAX：0796-36-3684 email：nouringc_tajima@pref.hyogo.lg.jp

令和2年度日本海ソデイカ(あかいか)漁況情報(中短期予報)

※ 但馬地域の沿岸漁業にとって重要な対象種となっている「ソデイカ(あかいか)」について、現況と中短期的な漁況予報をお知らせします。操業の参考になれば幸いです。

現況と見通し(予報対象期間:令和2年10月中旬～11月)

【現況:10月上旬まで】

- ・ 漁況指標値(香住支所の1日1隻あたり漁獲量)は、9月中旬までほぼ操業がなく、9月下旬に48kg、10月上旬に84kgと低調。(過去5年平均と比べて約1ヶ月遅れで推移)
- ・ 漁獲物のサイズは、10月上旬時点で胴長50cm台が主体。(体重4.5～8.5kg)

【今後の漁況予報】

- ・ 現況では但馬沿岸への漁況指標値は低調であり、過去の傾向から本格的な漁期に入る9月の水準が低調な場合は漁期後半も引きずることが多く、長期漁況予報の来遊指標値160kg前後(±80kg)に対して、80kg～160kgと低めに推移する可能性が高い。
- ・ 今後の漁獲サイズは現在の漁獲主体が成長した胴長60cm台前半～70cm台前半のものが中心になると考えられる。
- ・ 小型サイズもわずかにみられるが、現況では新たな加入群の兆候としては弱いと考えられる。
- ・ 山陰・若狭沖の冷水域の張り出しの規模は「やや小さい」、接岸状況は「やや離岸」で経過する見込みである。冷水域の中心部は概ね隠岐の北北東の北緯37°以北にあると推定される。
- ・ 対馬暖流域の表面水温は「平年並み」、50m深水温は日本海西部で「やや高め」で経過する見込みである。
- ・ 好漁場の指標となる水深50m深の19℃等温線、水深100mの15℃等温線の南縁はどちらも北緯36°以北で概ね沖合に広く分布するため、イカの分布は沖合まで分散しやすいと考えられる。

※日本海西部海域の海況予測には、国立研究開発法人水産研究・教育機構水産総合研究センター日本海区水産研究所の拡張版日本海海況予測システム(JADE2 <http://jade2.dc.affrc.go.jp/jade2/>)を利用しました。

1. 漁況の推移(図1)

漁況の指標としているJF但馬香住支所の1日1隻あたりの漁獲量(旬別平均値)は、9月中旬までほぼ操業がなく、9月下旬は48kg、10月上旬は84kgで推移しています。

但馬沿岸での漁模様は低調であり、来遊指標は過去5年平均と比べて約1ヶ月遅れて推移しています。

2. 漁獲物組成の推移(図2)

JF但馬香住支所での市場調査の結果、9月中旬で30cm台後半(1.5～2.5kg)～40cm台前半(2.5～3.5kg)が主体でした。

10月上旬は、胴長50cm台(4.5～8.5kg)のものが漁獲の主体であり、今後もこの群が成長しながら漁獲の中心になるものと考えられます。

年によって10月頃に別の小型サイズの群が加入してきます。現況では30cm～40cm台前半の小型サイズもわずかにみられますが、新たな加入群の兆候と判断するまでには至らないと考えられます。

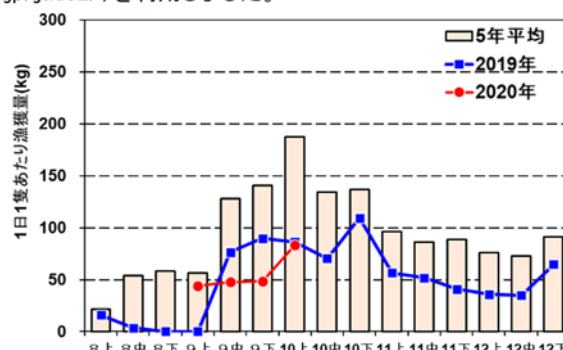


図1 旬別1日1隻あたり漁獲量の推移

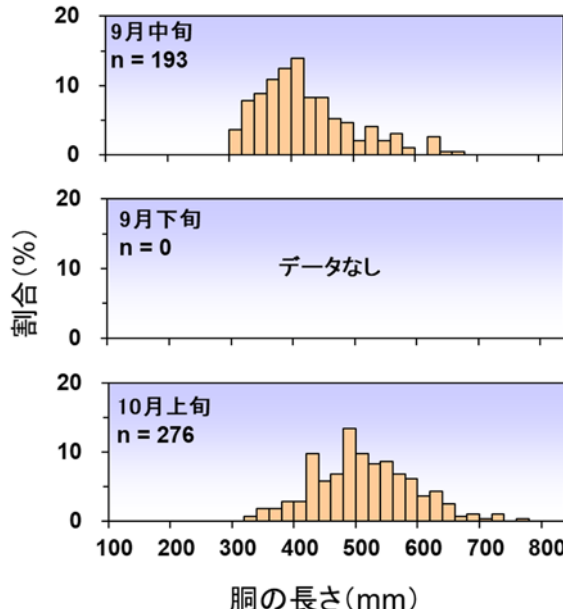


図2 漁獲物の体長組成

3. 漁場環境の推移 (図3)

これまでの調査により、好漁場は水深 50m の水温が 19℃以上、水深 100m の水温が 14～15℃以上の海域に形成されることが分かっています。また、この時期の山陰沖漁場の水温は、季節的な変動よりも沖合部に出現する冷水域の動きに大きく影響されます。

今漁期の 50m 深、100m 深の水温の変化を「拡張版日本海海況予測システム(JADE2)」により予測しました(図3)。

・太い赤線(50m 深の 19℃、100m 深の水温 15℃)示した等温線よりも水温の高い海域が「好漁場」となる可能性のある海域です。

・隠岐北北東の北緯 37° 以北に冷水域が推定されています。また、若狭湾沖北緯 37° 以北に暖水域が推定されています。これらが今漁期の漁場形成に影響を及ぼすことが考えられます。

【10 月上旬】(図3上段)

- ・隠岐北北東の北緯 37° 30 付近を中心に冷水域が存在していました。
- ・但馬沖の 50m 深では、水温 19℃以上が沖合まで広く分布していました。
- ・但馬沖の 100m 深では、水温 15℃の等温線が冷水域の周囲に分布し、南縁は北緯 36° 付近にありました。

【10 月中旬】(図3中段)

- ・北緯 37° 以北の冷水域は不鮮明になると予測されます。
- ・依然として但馬沖の 50m 深では、水温 19℃以上が沖合まで広く分布しています。
- ・100m 深では、水温 15℃の等温線の南縁は但馬沖の北緯 36° 付近にみられます。また、依然として若狭湾沖に暖水域が分布しており、沖合を中心に水温 15℃以上が広く分布するものと予測されます。

【11 月中旬】(図3下段)

- ・依然として北緯 37° 以北の冷水域は不鮮明になると予測されます。
- ・但馬沖の 50m 深では、水温が低下し 19℃以上の分布域はかなり沿岸寄りに迫っていますが、100m 深では引き続き水温 15℃以上が若狭湾の沖合まで広く分布するものと予測されます。

冷水域や暖水域の影響により、海域によっては海流の向きに大きな変化(速い逆潮等)が生じる場合がありますので、操業時にはご注意ください。

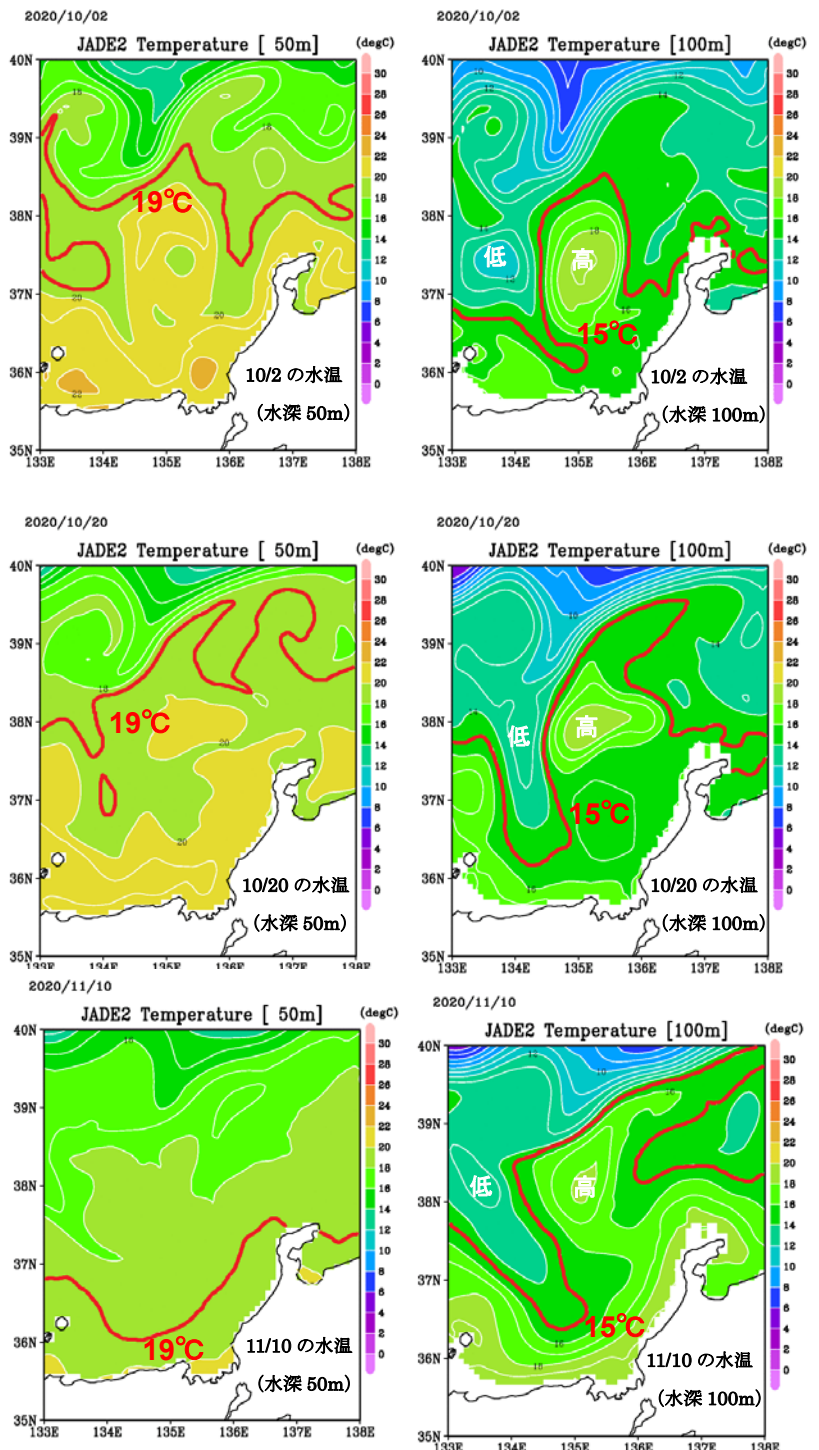


図3 水深 50m(左)、水深 100m(右)の水温分布予測(10/2 は再現図)
(太線:50m 深における 19℃等温線、100m 深における 15℃等温線)